

二度目の子離れ

公益社団法人家庭問題情報センター・原 千枝子

芳江さんは、六十代半ば、数年前に夫と死別し、二人のお子さんは、それぞれ結婚し独立しています。最近、離婚話が出ている娘のことが心配になって夜も眠れないと相談機関を訪れました。

芳（芳江） 娘は、大学を卒業し大手の商社

に就職して、社内恋愛で結婚しました。相手は、いわゆるエリート社員で、結婚してまもなく海外勤務になり、娘も仕事を辞めてついに行きました。子どもにも恵まれ、順風満帆な生活を送っていました。数年前に海外勤務を終えて、私どもの家から車で三十分位のところに自宅を建て、孫も夫婦が望む私立小学校に入っ

カ（カウンセラー） 大変なことですか？
夫の浮気です。

先月、孫の誕生日パーティーに招かれたのですが、その時の娘の様子がちよつと普段と違うと感じ聞いたのですが、はっきり言わないので、問い詰めたのです。そうしたら、夫の女性関係に気付き、悩んでいたのです。

出張や残業が増え、おかしいと思って、夫の入浴中にスマホを見てわかったとい

うことで、まだ夫には確かめてはいないとのことでした。ただ、婿の方も娘が怪しんでいることに気付いたのか、警戒してスマホを見られなくなるとか言っていました。

カ それは心配ですね。
芳 テレビとかでは見ますけれどね。まさか自分の身内にそういうことが起こるとは思いもありませんでした。

息子に相談したら、あまり深入りするなと言うのです。私は、心配でたまらず、趣味のサークルにも行く気はしませんし、夜も眠れません。

カ あなたにとっては、青天の霹靂だったわけですね。
芳 それはもう……。私の夫は、二年前にガンで逝きましたが、真面目一方でした。娘のところは孫もまだ小学校の三年生

ですし、家のローンだってあるはず。それなのに……。娘は、母親の私が言うのもなんですが、妻として母として一所懸命やってきたと思います。孫の私立小学校の受験の時なども本当に頑張っていました。婿は、忙しいってこともあるのでしょうか、娘まかせでした。

カ 芳江さんとしては、娘さんのご主人が許せないというお気持ちなのでしょうか。
芳 そうなんです。妻子がいるのに、他に

女性を作るなんて、本当に許せません。娘と孫がかわいそうで、これからのことを思うと夜も眠れません。

力 それで娘さんやお孫さんは、今、どうしていらつしやるのですか。

芳 表面上は今ままでおりの生活のようですが、ぎくしゃくしていると思います。

力 娘さんは、どのようにお考えですか。

芳 それが、はつきりしないんですよね。聞いてもぐずぐずしていて。それで私もイライラしています。

力 イライラしてしまふ？

芳 私は、白黒はつきりさせたい性格なんですよね。他に女を作った夫とは離婚して、すつきりやり直せばいいと思っております。

力 芳江さんが離婚するみたいですね。

芳 あら、私だったらつい……。自分のことのように熱くなってしまうって。

息子からもよく言われるんです。「おふくろは、みどり(娘)のことになると目の色が変わる。みどりもいい歳なんだから、放っておけばいい。いつまでも子離れできないんじゃないか」と笑われています。

力 娘さんのことだと放っておけない？

芳 そういえば息子のことには冷静でいられますね。

お嫁さんもさばさばした人で、夫婦共働きですし、友達夫婦みたいな感じでやっています。二世帯住宅で一階と二階で独立して生活しています。夫が亡くなってしばらくの間は、息子夫婦も心配してくれ、よく一緒に食事していました。もう孫も大きいですし、何かの記念日とかに呼ばれて食事する程度ですね。お互いの生活を尊重しています。

力 しつかりした息子さんとお嫁さんなのでしょう。

芳 そうですね。あの子は、夫に似てなんでも一人で決め、心配を掛けることはなかったですね。

それに比べると娘のことは、いつも心配していました。下の子ということもありましたし。

力 いつも何か手助けしないと心配だったということですね。

芳 そうですね。進学先や就職先も、結婚式とかも私を中心になって決めていましたね。世間の母親ってそういうものだと思っていましたし。

力 今回のこともそうでしょうか。

芳 ああ、そうですね。娘が傷付いてはいいけないと先に手を打たなければと思っていたのかもしれませんが。

夫に浮気されて娘が泣かされていると

思うと、いてもたってもいられなくて。それならさっさと離婚して孫と一緒に私のところに戻ってくればいいのにと思ったりしていました。

力 娘さん自身は迷っていらつしやる。

芳 そうですね。離婚するのがいいのかわかぬかも。

力 お子さんもいるし、娘さんなりに冷静に考えているのではないのでしょうか。

芳 そうかもしれませんね。あの子も一人前の母親なんですよね。

力 離婚の際には、いろいろと決めなければいけないことがありますので、きちんとした知識を得ておかれた方がよろしいでしょう。娘さんには相談機関のご利用を助言されてはいかがでしょうか。

芳 はい、そうします。私が少し冷静にならなくては。少し距離を置いて見守る努力をしてみます。

息子が言うように子離れしなくてはいいけませんね。ありがとうございました。

芳江さんは、次回の趣味のサークルに参加してみますと明るい表情でお帰りになりました。

